

大量のポイントカード機能を1枚に集約する

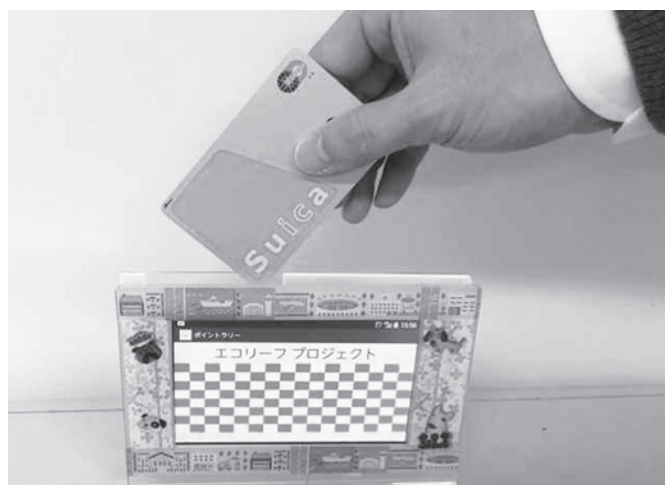
インターネットの登場やスマートフォン、タブレット端末といった携帯型情報端末の普及で、情報通信の世界は過去 20 年間で劇的に進化した。一方でちまたにあふれる情報を市民は処理できずにいる。その好例が企業や店舗が発行するポイントサービスだ。交通系や流通系など発行カードも増え続け、今や一人当たりのポイントカード所有枚数は平均 100 枚を超えと言われる。これを一枚に集約して利便性を図る取り組みが、レセプターと早稲田大学との間で進められている。

コンピューターのモバイル化を確信

小さい頃から将来の起業を夢見ていたレセプターの平田教光社長は、大学卒業後東京に本社がある大手電子部品商社に入社した。しかし体調を崩して故郷・福岡への帰省を余儀なくされ、当時まだ黎明（れいめい）期にあったコンピューターソフトの開発を細々と行った。ただインターネットもパソコンもない時代だったが、平田社長は「いずれコンピューターはモバイル化する」と確信していた。

ある日宝石の X 線分析ソフトの開発を依頼され製品化したところ、高い評価を受けた。処理装置にはカシオ計算機のコンピューターが使われており、これが縁で日本カルチャソフトサービス（東京都千代田区）九州事業所に入社した。同社では 7 年間ソフト開発に携わったが、ピーク時には国内ソフトの年

間売上高の 1 % を平田社長が開発したソフトが売り上げるほどだった。



複数のカード機能を1枚に集約して利用促進を図る

IC カード普及の波に乗る



スマートフォンを使った専用リーダーも開発済み

その後念願の起業を果たした平田社長に 04 年転機が訪れる。北九州市が日本で初めて、IC カードを使ったポイントシステム（エコポイント）の実証実験を日立製作所や早稲田大学などが参加して行ったが、ソフトの検証とデータの精査が平田社長に依頼された。

実証実験は 1 年で終了したものの、その後も早稲

田大学と共同研究を進めた。時を同じくして「スイカ」を始めとした非接触型 IC カードが急速に普及、交通や流通など多くの業界でポイントカードが大量

に発行されるようになり、現在では「国内流通ポイントの金額は3千億円産業に成長した」。

休眠状態を解消させるのが狙い

レセプターが4月に承認を受けたのは「既存 IC カードを活用したクラウド型低価格ポイントカードシステムの提供」。平田社長によると「1人当たりの同カード保有枚数は100枚ほどだが、常時携帯しているのは10枚程度」とか。つまり残りの90枚程度は自宅や職場で“休眠状態”にある。「100枚のカードを1枚に集約できれば、需要側、供給側双方が満足できる」と考えた平田社長は、13年夏に IC カード「ココカ」を開発した。

特徴は1枚のカードに契約会社すべてのポイントを集約できるほか「1ポイント1円という画一的考えではなく、企業や店舗ごとに内容を変えることが可能だ。

例えば1ポイントで100円使える店舗があれば、10ポイントためて商品と交換するなどのサービスを混在できる」。さらに新規発行しなくても、すでに顧客が保有している IC カードをココカのポイントカードとして活用できる。「他店のポイントを自店で使われる心配がなく、発行や管理の手間も大幅に軽減した」のが特徴だ。

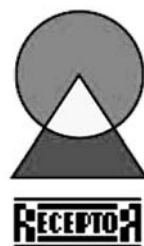
すでにスマートフォンを活用した専用リーダーも開発した。東京都新宿区の早稲田商店街や北九州市八幡東区の環境ミュージアムのほか、同市新規開発地区の再開発計画でインフラとして検討されるなど、利用エリアは着実に広がっている。



展示会でのPR活動も積極的に行っている



早稲田商店連合会で使われている IC カード



企業概要



平田 教光 社長

企業名	株式会社 レセプター
代表者	代表取締役 平田 教光
所在地	北九州市小倉北区京町3の14の11
TEL	093-512-5581
FAX	093-512-5582
Eメール	kyomi-r@receptorinc.com
URL	www.ReceptorInc.com
社員数	2人
事業内容	ソフトウェア開発、情報収集